

第2章

牧之原市の現状・課題のまとめ

みんなが気持ちよく
暮らすために
自分にできる一歩

自分にできることとは?
笑顔を絶やさない!
笑うことで幸せをひやせる
つらいことも笑顔で"ジ { ポジティブ }"
相手にも笑顔・幸せを!

1 人口・世帯の状況（資料編：p. 55～p. 56 参照）

- ・牧之原市の人口は今後も減少が見込まれる。
- ・少子高齢化が今後も進行する。

2018年（平成30年）10月1日現在、牧之原市の総人口は46,001人となっています。年齢階級別でみると、65～69歳が最も多くなっています。また、49歳以下の人口では、年齢が若くなるほど人口が少ない傾向がみられます。

牧之原市の総人口は、減少傾向にあり、今後も減少が見込まれています。年齢3区分別人口をみると、0～14歳人口、15～64歳人口が減少、65歳以上人口が増加しており、全国的な動向と同じく少子高齢化が進んでいます。

- ・片浜地区で少子高齢化が進んでいる。
- ・総世帯数は増加傾向にある。

地区別の年齢3区分別人口割合をみると、片浜地区で少子高齢化が進んでいるなど、地区ごとに違いがみられます。

牧之原市の総世帯数は、増加傾向にあります。地区別にみると、特に川崎地区や細江地区で増加しています。

2 子ども・子育ての状況（資料編：p. 57 参照）

- ・合計特殊出生率は減少傾向にある。
- ・児童扶養手当受給資格者数は減少傾向にある。

牧之原市の合計特殊出生率は、減少傾向にあります。2003年（平成15年）～2007年（平成19年）までは静岡県よりも高くなっていましたが、2008年（平成20年）～2012年（平成24年）では同水準となっています。

牧之原市の児童扶養手当受給資格者数は、減少傾向にあります。

3 高齢者の状況（資料編：p. 58 参照）

- ・要支援・要介護認定者数は今後は増加が見込まれる。
- ・高齢者のみの世帯が増加傾向にある。

牧之原市の要支援・要介護認定者数は、2016年（平成28年）から2017年（平成29年）にかけて減少傾向にありますが、今後は増加が見込まれています。

牧之原市の高齢者世帯数は、「高齢者のみで構成される世帯」で増加傾向にあります。

4 障がい者の状況（資料編：p. 59～p. 60 参照）

- ・療育手帳所持者数が増加傾向にある。

牧之原市の障害者手帳所持者数を障がい種別にみると、療育手帳所持者数が増加傾向にあります。

牧之原市の精神科入院患者数は、やや減少傾向にあります。また、通院医療費公費負担対象者数は、2015年（平成27年）を除くとほぼ横ばいとなっています。

牧之原市の特定疾患医療受給者数は、増加傾向にあります。一方、小児慢性特定疾患医療受給者数は、やや減少傾向にあります。

5 その他支援を必要とする人の状況（資料編：p. 60～p. 61 参照）

- ・生活保護受給者数は減少傾向にある。
- ・民生委員・児童委員の相談・支援件数は、高齢者が1,115件、障がい者が227件、子どもが144件（2017年（平成29年））。
- ・自殺死亡率は年によって変動がある。

牧之原市の生活保護受給者数は、減少傾向にあります。

牧之原市の民生委員・児童委員が対応した分野別相談・支援件数は、高齢者が1,115件、障がい者が227件、子どもが144件となっています（2017年（平成29年））。

牧之原市の自殺死亡率は、減少傾向にありましたが、2016年（平成28年）から2017年（平成29年）にかけて増加しています。

6 地域活動の状況（資料編：p. 62～p. 63 参照）

- ・ボランティア登録者数、ボランティア登録団体数は増加傾向にある。
- ・シニアクラブ会員数、単位シニアクラブ数は減少傾向にある。

牧之原市のボランティア登録者数は、増加傾向にあります。2017年（平成29年）のボランティア登録者数は2013年（平成25年）と比較すると、2倍以上となっています。

牧之原市のボランティア登録団体数は、増加傾向にあります。2017年（平成29年）のボランティア登録団体数は2013年（平成25年）と比較すると、3倍以上となっています。

牧之原市のシニアクラブ会員数、単位シニアクラブ数は、減少傾向にあります。

7 アンケート調査の状況（資料編：p. 64～p. 78 参照）

（1）市民アンケート調査の状況

① ご近所づきあいの程度

- ・5年前と比較すると、ご近所づきあいがやや希薄になっている。
- ・ご近所づきあいが菅山で活発である。

② 地域でのお手伝いの有無

- ・ご近所でのお手伝いは、年齢が下がるにつれてしていない傾向がある。
- ・ご近所でのお手伝いが坂部で活発である。

③ 地域でのお手伝いの内容

- ・お手伝いの内容では、話し相手になること、声かけや安否の確認をすることが多い。

④ 地域で自分がしてほしい手助け、できる手助けの内容

- ・自分がしてほしい手助け、できる手助けとともに、安否確認の声かけ、非常時の手助けが多い。

⑤ 近所の人への支援の考え方

- ・近所での手助けについて、できる範囲で支援したいが4割弱、支援をしたいが自分ことで精一杯でその余裕がないが3割弱みられる。

⑥ 地域の助け合いや福祉活動を進めるために必要なこと

- ・地域の助け合いや福祉活動を進めるために必要なことについて、医療機関等を充実する、学校や社会における福祉教育を充実することが求められている。

(2) 福祉活動に携わる方へのアンケート調査の状況

① 現在の活動上の課題

- ・活動上の課題について、役員のなり手がいない、新規メンバーの加入が少ないが多い。

② 支援が不足している対象

- ・支援が不足している対象について、高齢者のみの世帯、高齢者や障がい者を介護している方、ひとり暮らし高齢者、ひきこもり（成人）の方が多い。

③ 連携している組織・団体

- ・連携している団体について、牧之原市社会福祉協議会、地域包括支援センターが多い。

④ 連携する上での困りごと

- ・連携する上での困りごとについて、組織・団体の人と出会う機会がない、多忙で連携まで手が回らない、組織・団体と連携の仲介・調整をしてもらえる人がいないが多い。

⑤ 行政の必要な取組

- ・行政の必要な取組について、活動の担い手となる人材の育成、個人でいつでも参加できる仕組づくりが多い。

⑥ 地域住民の参加や理解・協力を得るために必要なこと

- ・地域住民の参加や理解・協力を得るために必要なことについて、参加したくなる魅力的な活動メニューの充実と情報発信、地域における活動に関する情報の提供が多い。